



# 活躍の現場から



## ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会岩手・釜石開催の成功と「世界とつながるKAMAISHI」を目指して —— 岩手県釜石市文化スポーツ部国際交流課

### 釜石市の紹介

釜石市は岩手県の沿岸南部に位置し、2011年3月11日に発生した東日本大震災により、甚大な被害を受けた市の一つです。震災後、当市は国内および世界中からの心温まる支援を受けながら「鉄と魚とラグビーのまち」の復興に向けて、さまざまな取り組みを行ってきました。

釜石市はかつて新日鉄釜石が日本選手権を7連覇するなど、ラグビーとの関わりが深い町です。復興への長い道のりを支え市民の希望となるよう、ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会 (RWC2019) の試合を釜石市で開催したいという市民の願いにより、2015年に釜石市での試合開催が決定しました。そして、2019年には被災した小中学校の跡地に建設された釜石鶴住居復興スタジアムを会場として念願の試合が行われ、世界中の方たちに支援への感謝と感動を届けられました。

残念ながら、台風19号の影響により予定された2試合のうちの1試合ナミビア対カナダ戦は中止となりましたが、両チームの選手による台風被害に遭った現地での



オーストラリアの小学生とラグビー交流

ボランティア活動は、同大会の感動的なストーリーのひとつとなっています。また、震災からの復興を通じラグビーの価値を世界的に高めたとして、ラグビーユニオンの国際競技連盟ワールドラグビーよりキャラクター賞を受賞しました。

### RWC2019 岩手・釜石開催の成功に向けて

釜石市では、この世界的な大会である RWC2019 岩手・釜石開催の成功に向けて、2016年より国際交流員 (CIR) を任用しており、エミリー・ハラムズさんとアシュリン・バリーさんにさまざまな取り組みに関わってもらいました。

#### ① インバウンドおもてなしセミナーの開催

釜石市での試合開催にあたり、海外からの外国人観光客が急増することが予想されたため、市内飲食店や小売店に向けて、CIR が講師となって接客英語のレッスンやメニュー・パンフレットの翻訳のサポートなどを含む「インバウンドおもてなしセミ



RWC2019 岩手・釜石開催時に披露された感謝の大フラッグ

ナー」を開催しました。この講座では、言語の面だけでなく、外国人から釜石市がどう見えているかを説明し、印象をより良くするためにどうしたらいいかなど、外国人である CIR の意見を取り入れて行われました。参加者からも、今までになかった新鮮な視点からの意見に、とても刺激を受けたと好評でした。



インバウンドおもてなしサポート事業

## ②緊急時の体制整備

釜石市は東日本大震災だけでなく、多くの自然災害により被害を被ってきました。そのため、釜石市を訪れる外国人観光客が安心して滞在できるよう、各施設の案内板や避難誘導標識などの英語表記化を行うなど、緊急時の外国人観光客の安全の確保に取り組んできました。

## ③ボランティア通訳リーダー養成講座の開催

市全体で外国人観光客を受け入れる体制を整えるため、釜石市国際交流協会が開催する市民向けのボランティア通訳リーダー養成講座に、CIR が講師として参加しました。これは、講座を通して外国人観光客をスムーズに受け入れる方法を学ぶだけでなく、市民がボランティアとして大会に関わることで、大会の機運を醸成することも



ボランティア通訳リーダー養成講座  
(提供：釜石情報ポータルサイト～縁とらんす)



市民向け「ラグカフェ英会話」講座

目的としていました。参加者の多くは海外に対して強く興味を持っており、積極的に英会話やおもてなしについて学んでいました。

## 「世界とつながる KAMAISHI」の実現に向けて

RWC2019 岩手・釜石開催の成功に向けて尽力してくれた 2 人は既に退職しており、現在は、ナターシャ・ミリガンさんがその後を引き継いでいます。

大会開催で培った経験や関係各国との絆を生かすため、2021 年 3 月には「釜石市多文化共生推進プラン」を作成し、目指すべき将来像の「世界とつながる KAMAISHI」の実現に向けて、国際交流や多文化共生社会づくりを進めています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、思うように取り組みを行うことができない状況が続いていますが、そのような状況下にあっても、各国との懸け橋として釜石市の CIR は国際交流活動に尽力しています。ナターシャさんには、引き続き CIR ならではの視点から見た釜石市の魅力の発信と、さらなる国際化の推進に取り組んでもらいたいと思います。



ナターシャ・ミリガン CIR